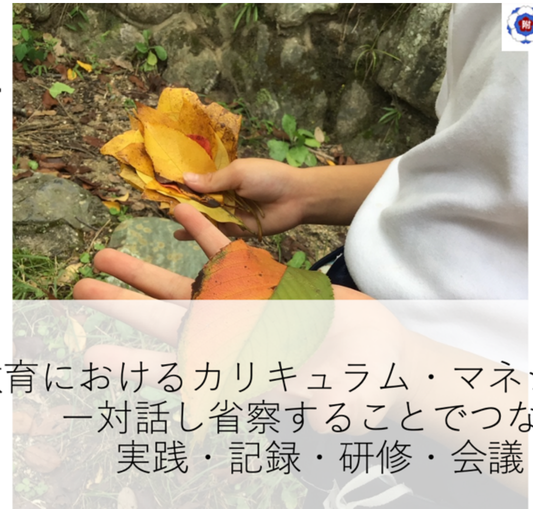
2022 年度　オンデマンド研究報告

２０２２
研究報告



奈良女子大学附属幼稚園
ならじょしだいがくふぞくようちえん
Kindergarten Attached to Nara Women's University

幼児教育におけるカリキュラム・マネジメント
ー対話し省察することでつなぐ
実践・記録・研修・会議・社会ー

研究の目的

1｜奈良女子大学附属幼稚園に身をおいている私たちが、いかにしてカリキュラムマネジメントを行う中で、実践を変容させてきたのか、その背後にはどのような営みがあったのか、について明らかにする。

2｜私たち実践者にとってカリキュラムマネジメントとは一体どのような営みなのか、について言語化する。

3｜組織における実践研究方法のあり方について提案する。

方法

・組織内で一人ひとりのメンバーが自分にとって「子どもスタートの教育とは何か」を問い直しながら子どもとともにより良い実践を創っていけるよう、実践を語り言語化する場と時間を保障する。

・子どもも私たちも一人の人として感じ考えたことについて、違いを尊重し共存させる。その上で対話し、それぞれの学びや自覚した実践理論の重なりを組織文化として言語化する。

奈良女子大学附属幼稚園
ならじょしだいがくふぞくようちえん
Kindergarten Attached to Nara Women's University

本研究報告の流れ

1｜はじめに

2｜わたしたち実践者のカリキュラム・マネジメント

（1）「実践の省察」
ー実践を「正しさ」で語るのではなく、わたしはなぜそう捉えようとしているのかを問い直す思考への変容ー

（2）「保育実践」　ーわたしの実践が変わるということー

（3）「どうありたいのか」を思い描くこと

3｜実践者が学び続けるということ

4｜わたしたちはどんな社会を創りたいのか　そのさきへ

奈良女子大学附属幼稚園
ならじょしだいがくふぞくようちえん
Kindergarten Attached to Nara Women's University

わたしたち実践者の専門性を構成する基本的要素（奈良女）

「実践の省察」

出来事が子どもとわたしたち、そしてわたしたちを取り巻く他者や世界にとって
どのような意味をもったのか、どのような意味が生成されたのか、
保育の文脈の中で、わからなさも含めて共存し、短期的に、長期的に理解しようとすること

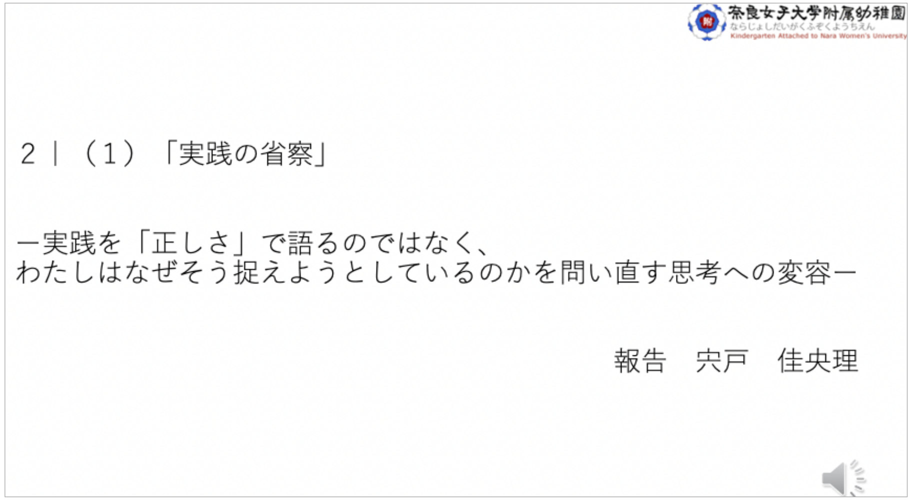
「保育実践」

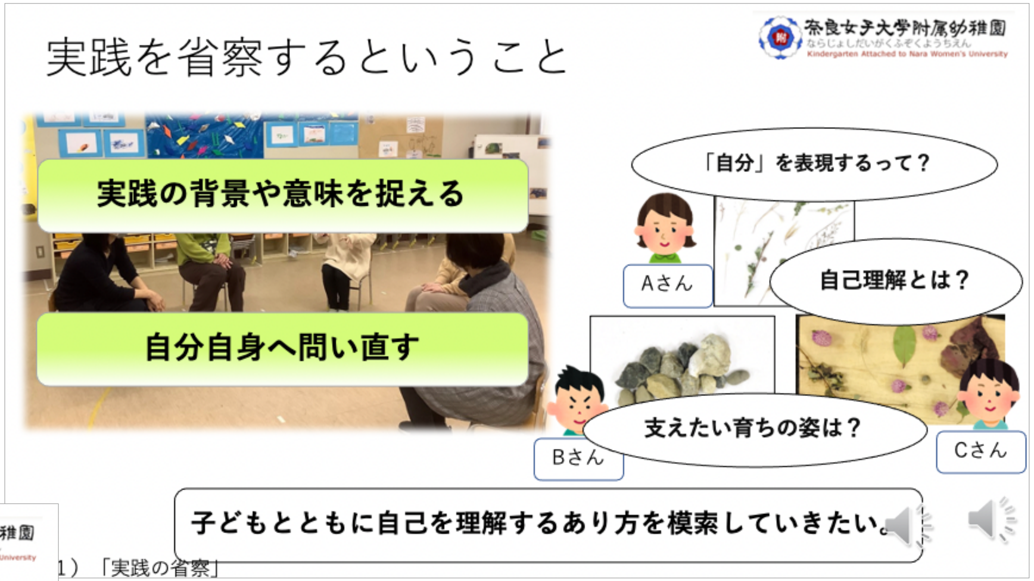
「わたしはなぜ、その時にその行動を選択したのか？」「わたしはどうしてそう感じるのか？」
わたし自身の実践を支えている無自覚な実践理論を自覚し、他者とともに創っていくこと

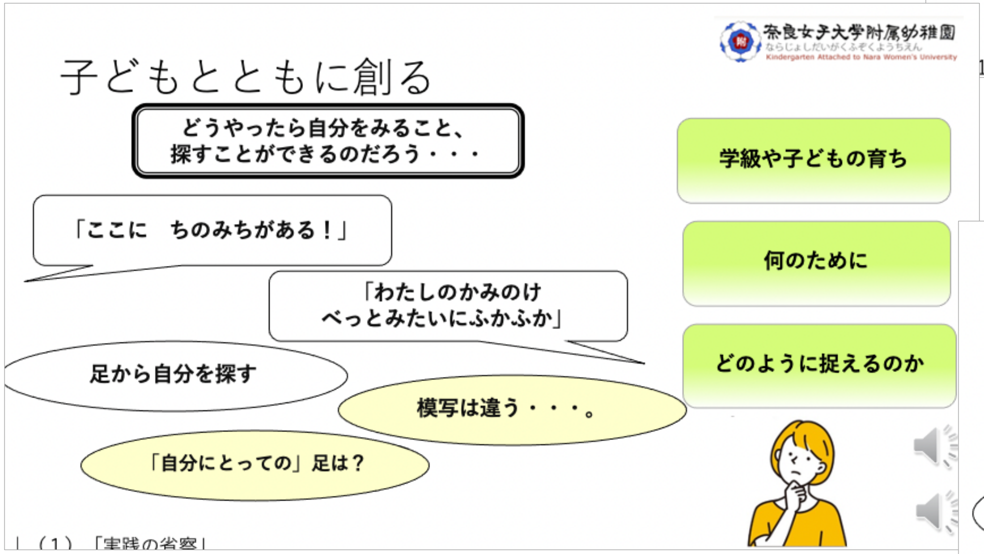
「どうありたいのか、を思い描くこと」

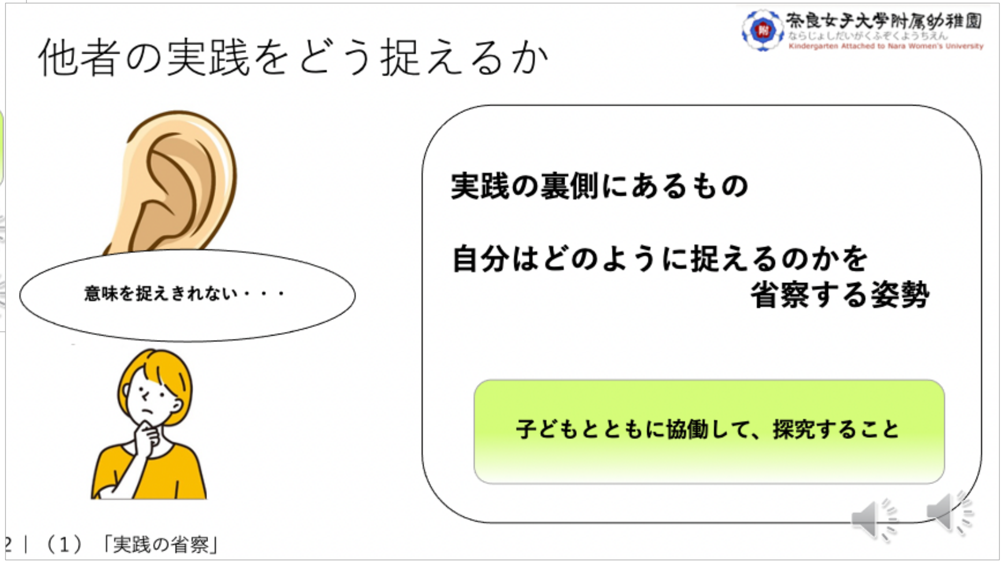
子どももわたしたち大人も含み、
どうありたいのか、どんな社会を創造したいのか、について思い描くこと

(2022)


奈良女子大学附属幼稚園
2｜（1）「実践の省察」
ー実践を「正しさ」で語るのではなく、
わたしはなぜそう捉えようとしているのかを問い直す思考への変容ー
報告　宍戸　佳央理


実践を省察するということ
奈良女子大学附属幼稚園
実践の背景や意味を捉える
自分自身へ問い直す
「自分」を表現するって？
自己理解とは？
支えたい育ちの姿は？
Aさん
Bさん
Cさん
子どもとともに自己を理解するあり方を模索していきたい。
1）「実践の省察」


子どもとともに創る
奈良女子大学附属幼稚園
どうやったら自分をみること、
探すことができるのだろう・・・
「ここに　ちのみちがある！」
「わたしのかみのけ
べっとみたいにふかふか」
足から自分を探す
模写は違う・・・。
「自分にとっての」足は？
学級や子どもの育ち
何のために
どのように捉えるのか


他者の実践をどう捉えるか
奈良女子大学附属幼稚園
意味を捉えきれない・・・
実践の裏側にあるもの
自分はどのように捉えるのかを
省察する姿勢
子どもとともに協働して、探究すること
2｜（1）「実践の省察」

２｜（２）「保育実践」

ーわたしの実践が変わるということー

報告　辻岡　美希

「子どもスタートの教育」の捉えの変化

「尊重」の捉えの変化

子どもが
育っていない

あきらめる

経験値

子どもの言葉や行動をそのまま受け入れ、
その時期に合った方法で実現すること

今大切なもの

互いに価値を見出すこと
互いが意思をもつものとして大事にされること

目の前にいる
子ども

子どもたちとともに
自分ができること

実践をもとにした対話より

自分の実践についての捉えの変化

自分の思考や生き方を自覚する

経験的
感覚的

自分の道筋

子どもとの
向き合い方

他者との対話

<u>大事にしたいこと</u>
尊重
子どもとの関係性

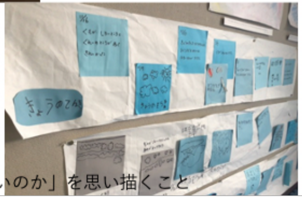
奈良女子大学附属幼稚園
ならじょしだいがくふぞくようちえん
Kindergarten Attached to Nara Women's University

2｜（3）「どうありたいのか」を思い描くこと

報告　松田　登紀

きょうのそらはとどきそう！

きょうのそら　にっき



ひこうきのなかでも
そらがみえるねん

そらのせかい｜5歳児　11月

わたしのそら

おどっているかんじでうれしい。
かいててわくわくした。

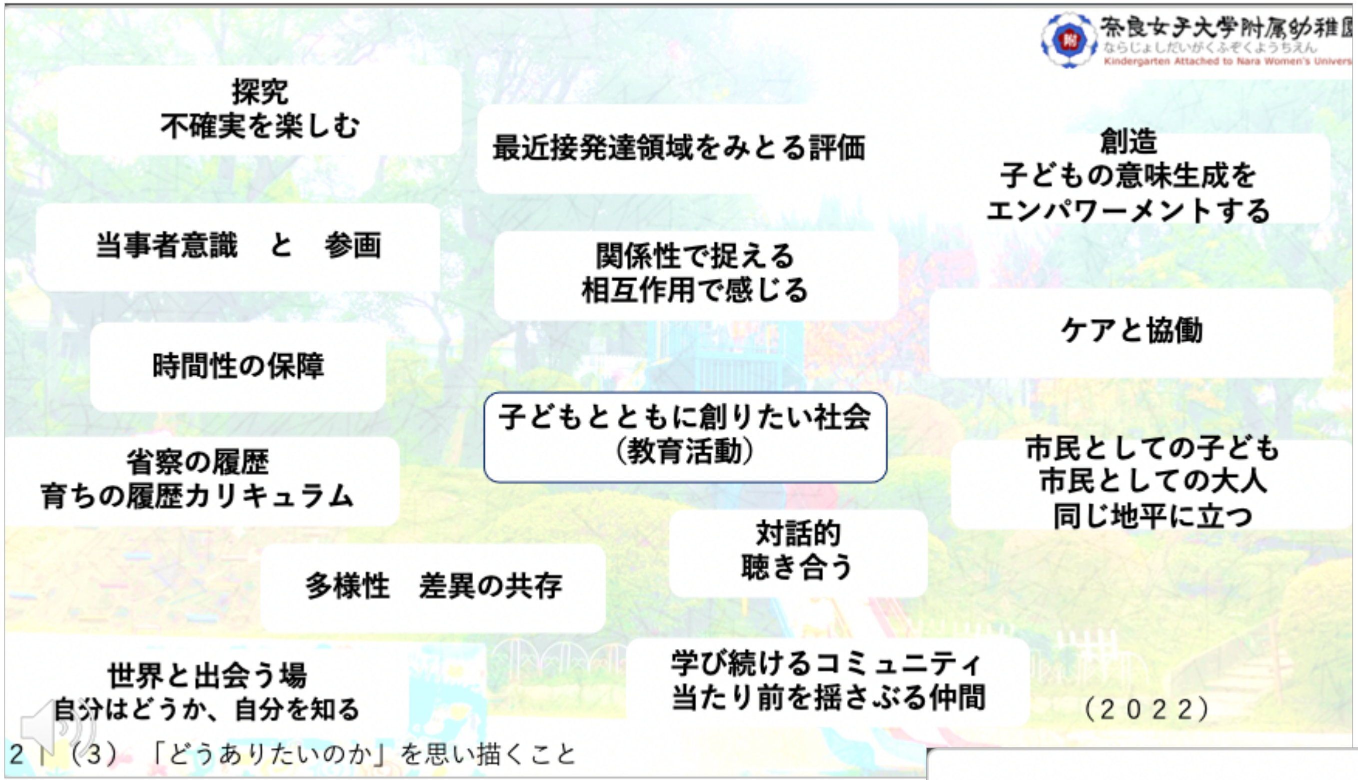
あめのくも

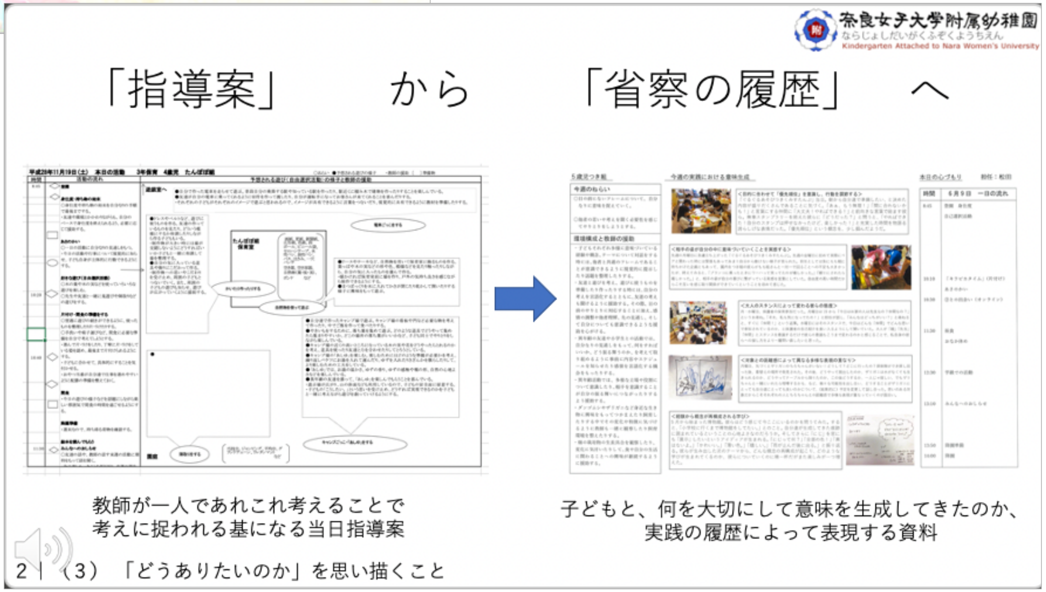
あつかったけど、あめがふるとつめたくてすずしくなる。

せいざ

ほしがあって、
せんでつないでる。
ほんとうはせんはありません。
にんげんがつくりだしたものです。
せいざは
つきくみでかんがえています。

私が今年度、子どもたち、彼らと対話の中で学び、
新たな世界と出会い、
彼らと意味を生成し、創造した世界がありました。
それが「そらのせかい」です。
協働して探究し、自分にとって空とは一体何なのか、
それぞれに問い直し、空と出会い直し、仲間と探究し、
新たな意味を見出し、そして自分達の保育室に表現した
「そらのせかい」。
彼らは自分達でこの世界に意味を作り出し、
その面白さや自己効力感を味わいます。
決して諦めず、納得がいくまで取り組みます。
考えることが好きで、仲間といかに心地よい社会を創造するのか、をよく対話をする彼らと共に
不確実な世界の可能性を楽しめる、それが私の毎日です。


奈良女子大学附属幼稚園
ならじょしだいがくふぞくようちえん
探究
不確実を楽しむ
最近接発達領域をみとる評価
創造
子どもの意味生成を
エンパワーメントする
当事者意識　と　参画
関係性で捉える
相互作用で感じる
ケアと協働
時間性の保障
子どもとともに創りたい社会
（教育活動）
省察の履歴
育ちの履歴カリキュラム
市民としての子ども
市民としての大人
同じ地平に立つ
対話的
聴き合う
多様性　差異の共存
世界と出会う場
自分はどうか、自分を知る
学び続けるコミュニティ
当たり前を揺さぶる仲間
（２０２２）
２（３）「どうありたいのか」を思い描くこと


奈良女子大学附属幼稚園
ならじょしだいがくふぞくようちえん
Kindergarten Attached to Nara Women's University
「指導案」　から　「省察の履歴」　へ
教師が一人であれこれ考えることで
考えに捉われる基になる当日指導案
子どもと、何を大切にして意味を生成してきたのか、
実践の履歴によって表現する資料
２（３）「どうありたいのか」を思い描くこと

奈良女子大学附属幼稚園
ならじょしだいがくふぞくようちえん
Kindergarten Attached to Nara Women's University

3｜実践者が学び続けるということ

報告　　鎌内　菜穂

奈良女子大学附属幼稚園
ならじょしだいがくふぞくようちえん
Kindergarten Attached to Nara Women's University

「語り合い」から生まれる「学び」

- 「語り合い」の場によって変わる捉え

「今日、すっごい充実して保育をした感じがした」
「保育をした？それってどういうこと？」

わたしにとっての「保育」とは？

自分の文脈にのせていたのかもしれない。
それは「遊ばせていた」ということか？
＝遊ぶってどういうこと？

子どもの前でのわたしの心構え

教師でいようとしていたのかもしれない。
＝「子どもとともに」って？

「高校では自分のこと『先生は』って言わないの。
高校に赴任して、そう言ったら生徒に笑われたのよね。教師である前にここにいるのは
わたしって思ったの」
「幼稚園では、『先生はね』って話します」

奈良女子大学附属幼稚園
ならじょしだいがくふぞくようちえん
Kindergarten Attached to Nara Women's University

立ち行かない現実
－これまでの「学び」が活かせない－

- 保育実践を学び得たと感じていたわたし ⇨ 学びが活かせない

子どもの思いを汲んでいるはずなのに…

子どもに合わせた援助を
考えているのに…

教育課程の流れと子どもの姿のズレ

学んできたはずの保育実践が何もうまくいかない

奈良女子大学附属幼稚園
ならじょしだいがくふぞくようちえん
Kindergarten Attached to Nara Women's University

「学び続ける」こと
ー変わりゆく自分を捉えるー

・「学び」：活用して活かすことができるもの

⇩

変わらぬものとして扱うことで無自覚のうちに「あたりまえ」のものとなる

・「学び続けること」：「あたりまえ」を自覚すること

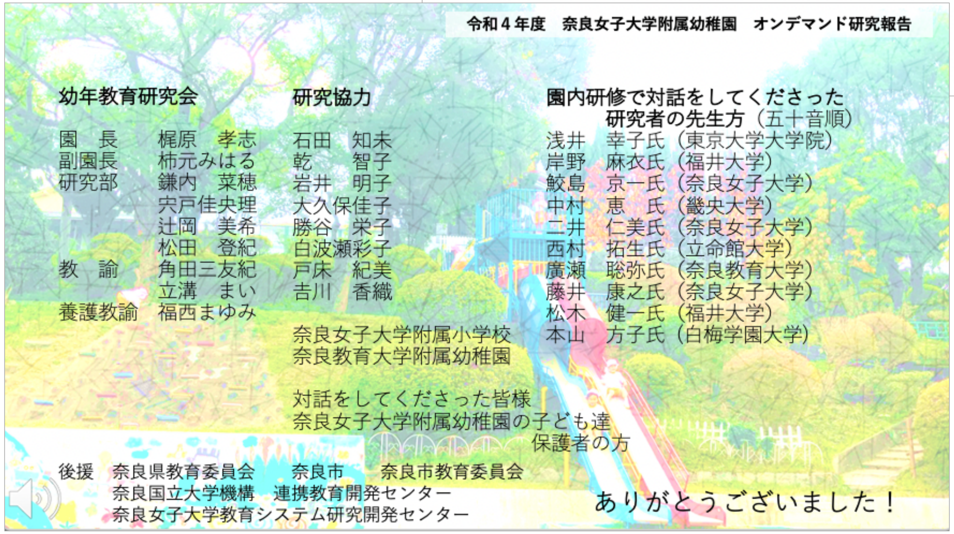
⇩

自分の中で変わらぬ価値を見つめること　価値の質の変容を捉えること

他者とともにあること　　自らの捉えの意味を問い続けること

子どもと共にどうありたいのか、
それを、どんな言葉で紡ぎ出していくのか、
これから、子どもたちと一緒に考えていきたいと思っています。
このように、園で実践する実践者一人ひとりの
思考の枠組みが変わることによって、
保育の、世界の解釈の仕方そのものの転換が起こってきています。
今までが間違っていたのではなく、
思考の枠組み、解釈が変わってくるのです。

4｜わたしたちはどんな社会を創りたいのか　そのさきへ



生きることは学ぶこと、ワクワクしながら、
皆さんも一緒に世界と出会い直していきませんか？
どうしてこの場所にこの遊具があるの？
どうしてあの先生はこの教材を選んだの？
わたしはどうしてそれが気になるの？
こんな小さな問いから、
カリキュラムマネジメントは始まっていきます。

どうして自分はそう思うのか？
そんな問い直しと、
「どうしてそう思うの？」
仲間との対話から、自分の実践理論を自覚してみませんか？